

令和6年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会 議事録

開催日時	令和6年7月3日（水曜日） 14:00～15:15	
開催場所	台東区役所 10階 1002会議室	
出席者	委員	酒本委員長、坂本副委員長、曾雌委員、徳堂委員、野口委員、桐木委員、佐藤委員、村木委員、井上（太）委員、清田委員、江口委員、荒田委員、岩本委員、尾本委員、井上（健）委員
	その他	[障害福祉課] 庶務担当係長2名、給付担当係長、総合相談担当係長2名 [保健予防課] 精神保健担当係長 [松が谷福祉会館] 庶務担当係長、障害者デイサービス担当係長
	事務局	[障害福祉課] 庶務担当係長、職員2名
欠席者	風間委員	
傍聴	<ul style="list-style-type: none"> ・一般傍聴 1名 ・令和6年度東京都相談支援従事者現任研修受講者 1名 	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 新委員の委嘱及び紹介 3 委員長選出 4 副委員長の指名 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 就労部会報告 (2) 相談支援部会報告 (3) くらしの部会報告 (4) 障害福祉課より 6 その他 7 閉会 	

配布資料	資料 1	令和 6 年度台東区障害者地域自立支援協議会委員名簿
	資料 2	台東区障害者地域自立支援協議会設置要綱
	資料 3 /別紙	令和 6 年度第 1 回台東区障害者地域自立支援協議会(就 労部会)報告
	資料 4 /別紙	令和 6 年度第 1 回台東区障害者地域自立支援協議会(相 談支援部会)報告
	資料 5 /別紙	令和 6 年度第 1 回台東区障害者地域自立支援協議会(く らしの部会)報告
	資料 6	令和 5 年度台東区における障害者虐待にかかる相談・通 報・届出件数について
	資料 7 /別紙	区立台東病院における医療型短期入所の実施について

— 議 事 内 容 —

(1) 就労部会報告

資料 3 / 別紙 「令和 6 年度第 1 回台東区障害者地域自立支援協議会（就労部会）報告」

委員長	資料を事前に拝見し、特に別紙が、ライフステージで整理されていたり、中途障害にも触れられていたり、わかりやすくよい資料であると感じた。今後必要と思われる支援等については、事例研究などを通じて進めていっていただければと思う。
委員	資料 1 ページ目に、『余暇活動を企業としてどこまでできるか』と記載がある。ハローワークの方にかがたいが、企業の取組みの現状はどのようなか。
委員	企業から、就労に関してのご相談は受けるものの、余暇活動についてはあまりうかがう機会がなく、この場で共有できるような具体的な事案は確認していない。
委員	そういったところが充実されると働く方の意欲も増すので、拡充が望まれる。
委員	情報収集し、働く方がモチベーションアップやいきがいを感じることで就労につながるケースについては、ご相談にのっていききたい。

委員

資料2 ページ目の30代前半の方の事例で、『働く意欲はあるのか、働く意味が少しでも見つかるとうい』と述べられているが、私がお相談にのった方の事例に照らし、本人が働く意欲を求めめる必要があるのかということをお思った。楽しく何かをできていて、それが働くことにつながるのが理想だと考える。その方は絵の才能があり、『それほど絵画に夢中になれるのであれば、続けてやっごらん、絶対いい仕事になるよ』と言っていたが、今年それが実現した。約5、6年かかったが、本人が言うには、『以前は本当に自分が楽しいと思うことがわからなかった、働け働けと皆が言うのも苦だったが、自分が楽しいと思うことを深めて、それが職となり本当に私は今幸せです』という連絡を受け、本当にここまでよく頑張ってきたとお思った。就労ということが目的だが、楽しさを与えるということが線としてつながればとお思う。

委員(報告者)

本人たちの得意なことや好きなこと、趣味などを就労に結びつけられると一番よいという話はよく出ている。楽しみがないと仕事はできない。

特例子会社で、コロナ前まで余暇活動を盛んに実施していたところは、そろそろ再開するという話も耳にしており、そうしたことも継続につながることをお思う。

私の担当している方も、手先が器用で清掃の仕事についていたところ、年齢的に難しくなり、袋織りの仕事に転職した方がいらっしゃるが、楽しいという明るい声を電話で聞くと、可能性を広げられるように支援していかねばと、あらためて感じた。部会でも確認し合いたい。

委員

またこれも事例としてだが、発達障害と知的障害のある50代後半の方で、ご本人は障害を認識しておらず、職場から仕事が遅いから辞めていただきたいという話があり、新しい職が見つかるまで手伝いに来てもらったことがある。様子を見ていると、勝手なことをする。極端な例では、ごみを捨てなさいという、捨てるのだが違うごみまで捨ててしまう。しかし、ご自身はきれいにしたと主張をする。ご本人は、家にはだめで週1日でも2日でも働かなければという意識がある。よい性格なので、『必ず仕事がありますよ、心配しないでください』とご本人に伝え、まず自信を持たせた。人よりコミュニティーが不足していたので、それから、『大事な話をしているときに目の前にお菓子を食べるのはノーですよ、誤解されます、気づいていたらどうでしょうか』ということをお話していき、初めていろいろな事に気づき始めた。そうし

たところ、7月に仕事が決まって、満面の笑みで私のところに来た。『大丈夫です、何かあれば、また私は正直にあなたに伝えます、試用期間でもあるので、頑張ってください』と励ました。コミュニティー不足があるので、企業側もその点を理解してもらえると、もう少し違う生き方ができるのではないかと思う。

委員(報告者) 企業とご本人の間に立って支援していくのが私共であると認識しており、お話を承った。

(2) 相談支援部会報告

資料4／別紙 「令和6年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(相談支援部会)報告

委員長 事前に資料を確認させていただが、昨年度から移動支援についての提案もされており、実現に向けては区と協議の上、引き続き検討していただけたらと思う。また、資料5ページ以降の相談内容もかなり多岐にわたっており、様々な分野との調整が必要になってくるものと受け止めている。

委員 資料3ページ目に、今までにあまり見られなかった、視覚障害(緑内障)が取り上げられている。視覚障害は、入院も病院もとにかく大変で、支援者にも負担がかかり、施設に入る以前に生活そのもので様々な形でサポートが必要。新たに視覚障害者の困難さについて、ぜひ皆さんに研究していただきたい。

委員(報告者) 視覚障害のある方の支援については、あらためて部会の中でも担当されている方にうかがいたい。

委員長 視覚障害の場合も、先天性と中途障害では必要となる支援や生活の困難さが大分違うということがあるので、両方の側面からの支援を考えていただけるとよいかと思う。

(3) 暮らしの部会報告

資料5／別紙 「令和6年度 第1回台東区障害者地域自立支援協議会(暮らしの部会)報告」

委員長

別紙の資料はとても分かりやすく、簡潔にまとまっているのが特によいと感じた。今年の1月の地震もあり、防災意識が高まっているため、配付の時期なども調整していただけたらと思う。

また、人材確保についても、職場内研修やスーパービジョンがどのくらい組織的に行われているかという視点もいれていただけるとよいと思う。

委員

人材確保ということだが、ハローワークとしては人材確保についてどのような見解をお持ちか。別の事業所の方と話した際に興味深かったのだが、人材の確保は制度としてはあるのだが、制度についていけなかったり、組織として受け入れられなかったり、ということもあるとうかがった。

委員

事業者から求人票をいただくということは、ハローワークの業務の根幹で、積極的に求人確保に努めている。また、求人を出す以前の問題で、出せないという状況も多く聞いている。様々な分野で人手不足で、ハローワークの支援を頼りにしている企業も多い。物価高の影響を受けて、待遇を整えられる比較的大きな会社であれば、賃金を上げたり労働環境の調整を図ったりして採用活動を進められるのだが、そうでない会社も多くある。特に中小企業から、多くの求人をハローワークにいただいている。採用したいけれど、採用条件が整わない、条件をあげることができない、という相談が多くなっている。ただ、同じ条件であっても、会社の特長や魅力がなかなか求職者に伝わっていない場合もあるので、会社の魅力発信にも、ハローワークの支援の重点を置いている。

委員

当施設は比較的大きめの施設で、やはり人材確保が課題になっているが、考え方次第なのかと思う点もある。現在、技能実習生、外国人スタッフを雇用している。始めたばかりのころは、指導する職員の負担が大きいのではないかと、日本語がわからないのではないかと、知的障害の人の対応がわからないのではないかと等、不安が大きかった。しかし、皆さんとてもやる気があって、何よりも利用者さんたちが外国人スタッフの方がいることを喜んでいる。私たちは、人材不足と言いながらも、活用できる制度等をしっかり調べていかねばと思う。

ハローワークや台東区主催の『介護職等就職フェア』にも参加させていただいており、定年退職した方やもうすぐ定年という方で働きたいという方も多いのだが、会社として事務方の負担が大きくなるというところで、うまく生か

せていない。台東区の人材確保に関する連絡会も新たに始まったので、組織全体として、人材確保についてレベルアップや知識を広げていく必要があると考えている。あとは、人がいないというのはどこも一緒なので、人材以外の方法で現場の負担を軽減していける方法があれば皆さんで共有をしていきたい。

委員長 今の話にもつながってくるが、私が担当している通信教育科では、40代後半以降の方が、セカンドキャリアで社会福祉士や精神保健福祉士の資格をとりに来る事も多く、今後はそういう層をターゲットにしていくことも必要なのかと感じている。

委員 災害対策については、長年各部会でも取り上げてきたかと思う。障害のある方々、災害弱者は、実際被災した場合、皆さん在宅避難を求める。9割以上の方ができる限り自宅にいたいと望んでいるということは、以前から区も把握しているところで、国の方もそのような流れになっているかと思う。何が問題かという、相談員が安否の確認に行った際に、物資の不足や情報が伝達されていないということが判明した場合、具体的にどう動いて、どうネットワークで支援につなげたらいいいのかというのが未だにわからない状態であること。その前進のために、在宅避難についての連絡会や、横の話し合いの場、ボランティアであったり、フードバンクであったり、消防のみではなく民間の団体も交えたネットワークで、台東区ならではの課題を抽出する場所があらためて望まれる。

(4) 障害福祉課より

①令和5年度台東区における障害者虐待にかかる相談・通報・届出件数について

資料6 「令和5年度台東区における障害者虐待にかかる相談・通報・届出件数について」

委員長 虐待というのは1件でもあってはいけないことだと思うので、認定した後の対応の状況まで報告いただき、ありがたかった。疑問に思ったのは、施設従事者による虐待のうち、認定されない件数が半数以上と高いのはなぜかということ。先ほど説明の中にあっただように、匿名等ということか。

報告者 (障害福祉課) 匿名のケースや虐待の認定というところまではいかなかったが不適切な支援として認定し、施設へ改善の報告を求めている。

②区立台東病院における医療型短期入所の実施について

資料7／別紙 「区立台東病院における医療型短期入所の実施について」

委員長 医療が関わってくることで支援の難しさがあるものと感じた。数が非常に多いというわけではないと思うが、命にかかわる問題であり、4月1日から開始されたことはとても意味あることと考える。

委員 台東病院の医療型短期入所が実現したことは大変素晴らしいこと。実現には、障害福祉課や台東病院の方々の大変な努力があったものと思う。

まだ手探りの状態かと思うのだが、ひとつ気になったのは、医療スコアの判定の方法について。台東病院が判定するという事になっているが、医療スコアが高い人は訪問診療を利用されている方かと思うので、訪問診療で普段診療されている先生が医療的ケアの判定スコアを判定し、それを受けて利用できる前提で台東病院の面談をするというほうが、利用者にとってスムーズなのではないかと感じた。

委員 台東病院のショートステイだが、スコアが25点にいかないが重度である方もいらっしゃるので、サイクルにのってきたら、利用者の受け入れ拡大がなされればよいと思う。

委員長 まずは試行で、広がっていくということを期待したい。

6 その他

特段なし。